

参考文献

- Atwell, N. (1987). *In the middle. : Writing, reading, and learning with adolescents.*
Portsmouth, NH : Boynton/Cook Publishers.
- 安西祐一郎・内田伸子(1981)「子どもはいかに作文を書くか?」『教育心理学研究』29-4、
pp.323-332
- 池田玲子(1999a)「ピア・レスポンスが可能にすること—中級学習者の場合—」『世界の日本語教育』9、国際交流基金、pp.29-43
- 池田玲子(1999b)「日本語作文推敲におけるピア・レスポンスの効果—中級学習者の場合—」
『言語文化と日本語教育』17、pp.36-47
- 池田玲子(2000b)「推敲活動の違いによる推敲作業の実際」『お茶の水女子大学人文科学紀要』
53、pp.203-213
- 池田玲子(2002)「第二言語教育でのピア・レスポンス研究—ESLから日本語教育に向けて—」
『言語文化と日本語教育』2002年5月特集号、pp.289-310
- 石崎晶子(1999)「学習者の言語行動に対する母語話者の評価—主観的評価と客観的評価の関
係—」『第二言語としての日本語の習得研究』3、pp.19-35
- 石橋玲子(2000)「日本語学習者の作文におけるモニター能力—産出作文の自己訂正から—」
『日本語教育』106、pp.56-65
- 伊東昌子(1993)「表現へのプロセスアプローチ—表現する過程の支援をめざして—」若き認知
心理学者の会著『認知心理学者 教育を語る』北大路書房、pp.126-134
- 入部明子(1996)「アメリカの作文教育とコンピュータ」教育出版センター
- 入部明子(1991)「アメリカの作文教育におけるコンピュータ利用」『国語科教育』38、pp.123-130
- 因京子・市丸恭子(1994)「作文訂正に見る学習者の自己訂正意識—自律的習得を促進する
教授法考案のための基礎研究—」『九州大学留学生センター紀要』6、pp.57-73
- 上原久美子(1997)「日本語教育における作文の『記述的フィードバック』について—『コード』に
よる分析の試み—」『南山日本語教育』4、pp.135-161
- 内田伸子(1986)「作文の心理学—作文の教授理論への示唆—」『教育心理学年報』25
pp.162-177
- 内田伸子(1989)「子どもの推敲方略の発達—作文における自己内対話の過程—」『お茶の水
女子大学人文科学紀要』42、pp.75-103
- 内田伸子(1992)「文章の理解と生成」『教室でどう教えるかどう学ぶか—認知心理学からの教育

- 方法論一』北大路書房、pp.62-91
- 大西道雄(1998)『コミュニケーション作文の技術と指導』明治図書
- 岡崎眸・岡崎敏雄(2001)『日本語教育における学習の分析とデザインー言語習得過程の視点
点から見た日本語教育一』凡人社
- 岡本真彦(2001)「メタ認知ー思考を制御・修正する心の働き」森敏昭編『おもしろ思考のラボラ
トリー』北大路書房、pp.139-160
- Omaggio Hadley, A. (2001). Becoming proficient in writing. *Teaching Language in Context*
(3rd ed.). Boston : Heinle. 280-344.
- 影山陽子(2001)「上級学習者による推敲活動の実態ーピアレスポンスと教師フィードバックー」
『お茶の水女子大学人文科学紀要』54、pp.107-119
- 川口義一(1994)「中級文型集による文型学習ー作文による指導法一」『講座日本語教育』29
pp.1-16
- 川口義一(2004)「表現教育と文法指導の融合ー『働きかける表現』と『語る表現』から見た初級
文法一」『JournalCAJLE』6、カナダ日本語教育振興会、pp.57-70
- 川口義一・横溝紳一郎(2005)「作文の指導」「書く指導」『成長する教師のための日本語教育
ガイドブック』上巻、ひつじ書房、pp.182-193
- 衣川隆生(2001)「文型・文法クラスの支援活動としての作文コースの在り方の検討」『筑波大学
留学生センター日本語教育論集』16、pp.31-45
- 向後千春(2000)「『書く力』がつく最強最短プログラム」『自己表現力の教室』情報センター出版
局、pp.118-224
- 向後千春(2001)「問題解決と作文ー文章を書くとき私たちは何をしているのか」森敏昭編
『おもしろ思考のラボラトリー』北大路書房、pp.161-180
- Goldstein, L.M., & Conrad, S. (1990). Student input and negotiation of meaning in ESL writing
conferences. *TESOL Quarterly*, 24, 443-460.
- 小宮千鶴子(1991)「推敲による作文指導の可能性ー学習者の能力を生かした訂正一」
『日本語教育』75、日本語教育学会、pp.124-135
- 西條美紀(2000)「弁証法的作文過程のための作文指導」『日本語教育』105、日本語教育学会、
pp.91-100
- 坂井美恵子(1998)「作文フィードバックの方法とその効果」『関西外国語大学留学生別日本語
教育論集』8、pp.125-139

- 佐久間まゆみ(1996)「作文力の養成法—段落作成と要約作文—」『講座日本語と日本語教育』13、pp.302-323
- 佐々木瑞枝(2004)「一般日本人は何に注目して学習者の文章を読むのか—旅行アドバイスの場合—」『日本人は何に注目して外国人の日本語運用を評価するか』平成12年度～平成15年度科学研究費補助金基礎研究(B)(2)研究成果報告書、pp.197-214
- 佐渡島紗織(2001)「作文コーパス研究における対訳の有効性—対訳が添削に及ぼす影響—」『日本語教育のためのアジア諸言語の対訳作文データの収集とコーパスの構築』国立国語研究所、pp189-199
- 佐渡島紗織(2004)「文章表現指導における文種の取り扱い—アメリカにおける論争に学ぶ—」『国語科教育』54、全国大学国語教育学会、pp.27-34
- Zamel, V. (1985). Responding to student writing. *TESOL Quarterly*,19,79-101.
- 杉本卓(1989)「文章を書く過程」『教科理解の認知心理学』新曜社、pp.1-48
- Stanley, J. (1992). Coaching student writers to be effective peer evaluators. *Journal of Second Language Writing* ,1, 217-233.
- セリガー,ハーバート W. (Seliger,Herbert W.)・ショハミー,イラーナ (Shohamy Elana) (2001)『外国語教育リサーチマニュアル』土屋武久、森田彰、星美季、狩野紀子訳、大修館書店
- 館岡洋子(2005)『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習—』東海大学出版会
- 田中真理・坪根由香里・初鹿野阿れ(1998)「第二言語としての日本語における作文評価基準—日本語教師と一般日本人の比較—」『日本語教育』96、日本育学会、pp.1-12
- 徳丸智子(1998)「留学生と日本人学生による作文交換活動—構成的エンカウンター・グループを応用して—」『日本語教育』96、日本語教育学会、pp.166-177
- Newkirk, T. (2001). The first five minutes. : Setting the agenda in a writing conference. *The Allyn and Bacon guide to writing center theory and practice*. Needham Heights : Allyn and Bacon. 302-315.
- 畑佐由紀子(2003)「第二言語における作文研究の現状」『第二言語習得への招待』くろしお出版 pp.87-100
- 原田三千代(2005)「日本語中級作文におけるピア・レスポンス活動の可能性—活動プロセスと作文プロダクトの観点から—」お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修士論文
- 広瀬和佳子(2004)「母語によるピア・レスポンス(peer response)が推敲作文におよぼす効果

- 韓国人中級学習者を対象とした3ヶ月間の授業活動をとおして—『言語文化と日本語教育』19、お茶の水女子大学日本言語文化学会、pp.24-37
- 広瀬和佳子(2004)「ピア・レスポンスは推敲作文にどう反映されるか—マレーシア人中級日本語学習者の場合—」『第二言語としての日本語の習得研究』7、PP.60-80
- Paulus,T.(1999)The effect of peer and teacher feedback on student writing. *Journal of Second Language Writing*, 8, 265-289.
- Hayes, J. R., & Flower L. (1980). Identifying the organization of writing processes. *Cognitive processes in writing*. Hillsdale:Lawrence Erlbaum Associates.
- Hayes, J. (1996). A new framework for understanding cognition and affect in writing. *The science of writing*.Mahwah:Lawrence Erlbaum Associates.1-27.
- Faigley, L., & Witte S. (1981). Analyzing revision. *College Composition and Communication*, 32, 401-414.
- Ferris, D. R. 1999. The case for grammar correction in L2 writing classes: A response to Truscott(1996). *Journal of Second Language Writing*, 8, 1-11.
- Ferris, D.R., & Hedgcock,J . (2004). *Teaching ESL composition: Purpose, process, and practice*. Mahwah: Lawrence Erlbaum Associates.
- フリック,ウヴェ (Flick,Uwe) (2002)『質的研究入門—〈人間の科学〉のための方法論』小田博志、山本則子、春日常、宮地尚子訳、春秋社
- Freedman, S. W., & Sperling M. (1985). Written language acquisition.: The role of response and the writing conference. *The acquisition written language : Response and revision*. 106-130. Norwood. Ablex.
- 古澤頼雄、斉藤こずゑ、都筑学(2000)『心理学・倫理ガイドブック—リサーチと臨床—』有斐閣
- 宮崎里司(1999)「接触場面でのコミュニケーション調整とそのディスコースパターン—自己マーク自己調整を中心として—」『早稲田日本語研究』7、早稲田大学国語学会、pp.65-76
- 宮崎七湖(2003)「外国人留学生の文章産出過程の研究」早稲田大学大学院日本語教育研究科修士論文
- メリアム,シヤラン (Merriam ,S. B.) (2004)『質的調査法入門—教育における調査法とケース・スタディ』堀薫夫、久保真人、成島美弥訳、ミネルヴァ書房
- 茂呂雄二(1988)『なぜ人は書くのか』東京大学出版会
- Jacobs, S., & Karliner A. (1977). Helping writers to think.:The effect of speech roles in individual

conferences on the quality of thought in student writing. *College English*, 38, 489-505.

吉田研作(1991)「外国語学習とモニター利用」『日本語教育』73、pp.33-43

吉田茂樹(2004)「推こう過程における〈停滞〉に対する支援方法の研究—表現意図と表現の調整過程に機能するメタ的な支援の可能性—」『国語科教育』55、全国大学国語教育学会、pp.44-51

渡部洋一郎(1994)「作文産出における知識と課題状況—認知的領域の研究動向について—」『国語教育研究の現代的視点』東洋館出版社、pp.180-192